

[5] 北区南東部

- 35 **伝日羅墳跡**：飛鳥時代、朝鮮半島と日本との外交関係から、百済人に暗殺された日羅(肥後の人)の初葬の地とされる。(北区天満橋二丁目、大川西岸)
- 36 **源八渡し跡**：源八渡しは昭和11年(1936)に源八橋が架かるまでここにあった。東岸は梅の名所で、蕪村に「源八をわたりて 梅の主かな」の句がある。なお、源八橋の中央下流側にこれに関連した碑がある。(北区天満橋二丁目、大川西岸)
- 37 **池上雪枝感化院跡**：池上雪枝は明治16年(1883)、わが国最初の感化院をこの地に開いた。(北区松ヶ枝町3-20)
- 38 **緒方洪庵墓所**：蘭学塾「適塾」を開いた洪庵の墓所(北区同心一丁目3、龍海寺)
- 39 **篠崎小竹墓所**：小竹は篠崎三島の私塾梅花社で学んだ江戸時代の儒者で、後に三島の養子となった。19歳のとき江戸に出て研鑽を積み、帰阪後父と同じ梅花社(中央区今橋四丁目)を開いて多くの門人を育てた。(北区与力町2、天徳寺)
- 40 **山片蟠桃墓所**：両替商の番頭であった蟠桃は、懐徳堂の最盛期に中山竹山・履軒に儒学を、また麻田剛立に天文学を学んだ。前後18年をかけ視力の衰えを克服して「夢ノ代」全12巻を著した。(北区与力町2、善導寺)
- 41 **大塩平八郎墓所**：天保8年(1837)、天満与力 大塩平八郎は、凶作で困窮していた庶民を救うため「乱」を起こした。乱は半日で鎮圧されたが、一揆は各地に波及し幕府に大きな打撃を与えた。(北区末広町1-7、成正寺)
- 42 **堀川戎神社**(北区西天満五丁目4)
- 43 **大阪天満宮**(北区天神橋筋二丁目1)
- 44 **西山宗因向栄庵跡**：宗因は肥後の人で、武士を捨てて京都に出、連歌師を志した。寛永19年(1642)来阪、向栄庵を結び談林派の総帥として俳諧の世界に新生面を開いた。門下には西鶴、兔寛、来山らがいる。(北区天神橋筋二丁目1、大阪天満宮門前)
- 45 **天満組惣会所跡**：江戸時代、大阪は3つの区域(北組、南組、天満組)に分けられ、それぞれ自治が行われていた。惣会所はその役所的施設である。(北区天満四丁目、滝川公園内北西隅)
- 46 **天満興正寺跡**：はじめ天台宗に属し、後に真宗興正寺としてこの地に広大な堂宇を営んだ。(北区天満四丁目、滝川公園内中央東側)
- 47 **天満青物市場跡**：最初は石山本願寺を対象に自然発生し、その後場所の移動があり承応2年(1653)に当地に移った。野菜や果物の供給市場として隆盛を極めたが、昭和6年(1931)開場した中央卸売市場に吸収された。(北区天満三丁目、大川北岸)
- 48 **川崎東照宮跡**：元和3年(1617)に大坂城主松平忠明が建立した家康を祭る社の跡で、明治6年(1873)まで存在した。(北区天満一丁目24、滝川小学校玄関右側)
- 49 **洗心洞跡**：儒学、陽明学者でもあった大塩平八郎の私塾跡。(北区天満一丁目25、造幣局宿舍北1棟北東角)

- 17 **太融寺**(北区太融寺町3)
- 18 **綱敷天神社**(北区神山町9)
- 19 **鶴乃茶屋跡**：明治の中ごろ、この付近には鶴、萩、車という茶屋があって、大阪市民の行楽の地として賑わったという。(北区茶屋町8-8)
- 20 **佐伯祐三生誕の地**：明治31年(1898)この地に生まれた大阪を代表する洋画家 佐伯祐三は、フランスに渡りパリの風景を描き続け優れた作品を数多く残したが、昭和3年(1928)パリで病死した。30歳の若さであった。(北区中津二丁目5、光徳寺)
- 21 **豊崎神社**(北区豊崎六丁目6)
- 22 **淀川改修紀功碑**：淀川の改修は明治29年(1896)に測量を開始、同42年に完成した。碑にはその間の経緯が詳しく記されている。碑の周辺には毛馬洗い堰と閘門の一部が保存されており、往時を偲ぶことができる。(北区長柄東三丁目3)
- 23 **蕪村生誕地**：俳人と謝蕪村はこの付近毛馬村で生まれた。碑にはふるさとの風景を詠んだ「春風や 堤長うして家遠し」という句が刻まれている。(都島区毛馬三丁目、淀川堤防上)
なお、この句にちなんで名づけられた「春風橋」という橋が、ここから南へ800mほどの大川東岸沿いの毛馬桜之宮公園内に架かっている。
- 24 **鶯塚**：傍らに五輪塔が立っていることから墳丘の跡と考えられるが被葬者は不明。説明板には鶯にまつわる伝説が書かれている。(北区長柄東二丁目5、歩道内)
- 25 **鶴満寺**(北区長柄東一丁目3-1)
- C **南蛮文化館**：桃山時代から江戸時代にかけてのキリシタン遺物を中心とする南蛮美術と、関係古文書、古地図などを収蔵する。(北区中津六丁目2-18) 【休館日】月曜日
- D **住まいのミュージアム**：住まいの歴史と文化をテーマにした日本初の専門博物館。江戸時代の町並みを実物大で復元、展示している。(北区天神橋 六丁目4-20 住まい情報センター8階) 【休館日】火曜日【休日の場合は翌日】・休日の翌日・第3月曜日・年末年始



19 鶴乃茶屋跡



24 鶯塚

[4] 北区南西部

26 浄祐寺 (北区堂島三丁目3-5)

27 五代友厚製藍所・西朝陽館跡：明治初年、大阪経済の振興を図るため、五代友厚がここに近代的製藍工場を建設した。
(北区堂島三丁目1)

28 駅運司大阪郵便役所跡：わが国で郵便制度が設けられた明治4年(1871)、ここに郵便役所が置かれた。
(北区中之島二丁目、日本銀行大阪支店正面左)

29 大阪通商会社・為替会社跡：明治初年、銀本位制の廃止、大名貸しのこげつきなどによって大阪の豪商がづぎと没落し、大阪経済は疲弊した。政府はそうした状況を打開するため、通商会社と為替会社を設立させた。(北区中之島一丁目、中央公会堂南西角)

30 堂島米市場跡：淀屋の二代目小庵が北浜の路上で開いた米市場は、その後堂島に移った。享保15年(1730)公認の市場となり、ここでの相場は全国の基準になった。
(北区堂島浜一丁目、中之島ガーデンブリッジ北詰東側)

31 曾根崎川跡：この川は堂島川の分流で蜷川とも呼ばれたが、明治42年(1909)の大火の後埋め立てられた。付近は江戸期に新地として開発され、大いに賑わった。現在も大阪を代表する歓楽街である。(北区曾根崎新地一丁目5-29)

32 大阪市道路元標：国道1号、2号、25号など大阪市を起終点とする主要国道は、ここを基準にして距離が測られている。昭和27年、新道路法の施行とともに市役所前からこの地に移転した。
(北区梅田一丁目、梅田新道交差点北西角)

33 露天神社=お初天神 (北区曾根崎二丁目5)

34 法清寺=かしく寺 (北区曾根崎一丁目2-50)

F 錦橋：橋上に大阪の橋を描いた錦絵を陶板画にし展示している珍しい橋。また階段の下には、相撲番付に見立てた江戸時代の橋の「番付」が展示されている。
(北区中之島二丁目~西区土佐堀一丁目)

G 中之島近代建築群 (北区中之島一丁目~同二丁目)

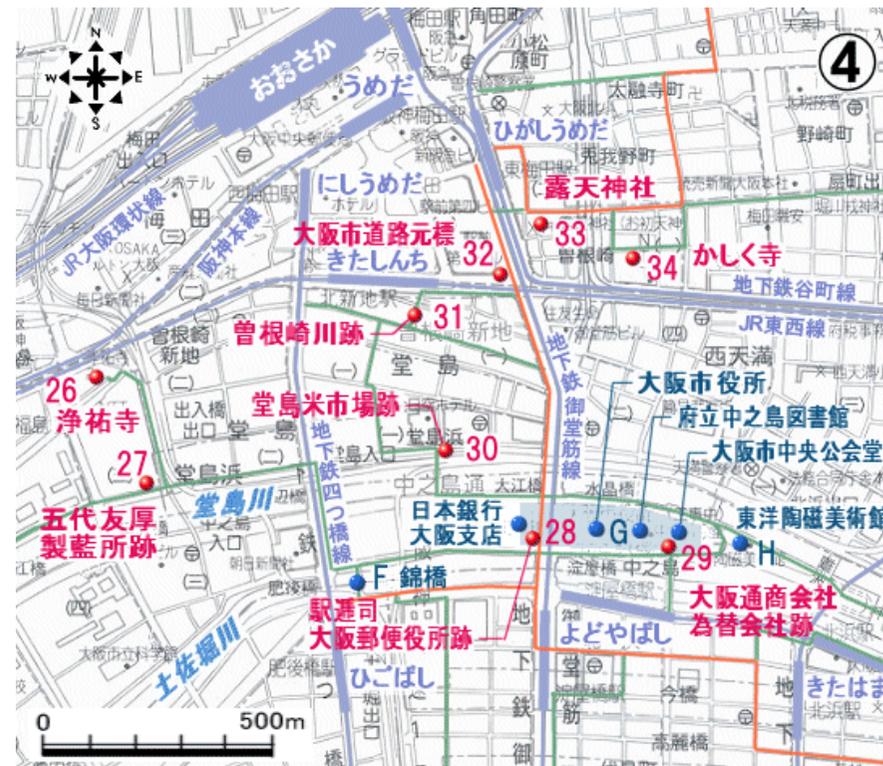
H 大阪市立東洋陶磁美術館：旧安宅産業が所有していた「安宅コレクション」を中心とした朝鮮・中国陶磁(国宝、重要文化財を含む)を所蔵・展示する。(北区中之島一丁目)
[休館日] 月曜日(休日の場合は翌日)・休日の翌日・年末年始



27 五代友厚製藍所跡



30 堂島米市場跡



50 泉布観：「泉布」は貨幣を、「観」は館を意味し、造幣局の迎賓館として建てられたもので重要文化財に指定されている。(北区天満橋一丁目)

51 旧造幣寮正面玄関：造幣局の前身造幣寮の正面玄関で、重要文化財。桜の宮公会堂の玄関として移築され、建物はその後ユースアートギャラリーとして使用されている。(北区天満橋一丁目)

52 造幣局旧正門 (北区天満一丁目1、造幣局構内、造幣博物館横)

中之島近代建築群

中之島には明治末期から昭和初期にかけて建てられた、いわゆる近代建築物がいくつか残っている。特に一丁目から二丁目にかけての一角は、大阪市中央公会堂(写真)、大阪府立中之島図書館、日本銀行大阪支店(いずれも重要文化財)が並んでいて、中之島公園の緑、堂島川・土佐堀川の水面とともに大阪を代表する都市景観をつくりだしている。

